

## 産直施設リニューアルオープンに向けての支援

住所	宮城県亶理郡亶理町荒浜字築港通り6-22	資本金	-
代表者	菊地一男	従業員数	15名
創業年			
業種	協同組合(魚介類, 野菜, 水産・農産加工品の販売)	売上高	2億7千万円(平成22年度)
TEL	0223-35-2228	URL	-

## 事業概要(被災前)

- ・地元の新鮮な野菜や、魚介類の産直市場として鳥の海温泉の1階で営業。
- ・構成メンバーは約100社。
- ・売り上げ高は、2008年度:2億1,000万円、2009年度:2億4,000万円、2010年度:2億7,000万円。

## 被災概要

- ・鳥の海温泉は沿岸部に立地していたため、津波が直撃し、産直市場を営んでいた1階部分が営業不能に。
- ・震災後は中小機構による仮設店舗で営業。
- ・年間約17万人の来店客のうち、約70%が観光客であったが、震災後は観光客が激減。風評被害もあり売上が3分の1に減少。

## 被災した「鳥の海温泉」



## 復興に向けた状況や課題

- 1) グループ補助金申請について検討。
- 2) 復興事業計画書の作成支援。
- 3) インターネットによる販売、広報についての支援。
- 4) 風評被害による商品販売対策。



仮設店舗で営業再開(平成23年12月)

## 支援テーマと内容

1. グループ補助金を申請するための制度説明会の支援。
2. グループ補助金を申請するにあたっての復興事業計画書の記載内容についての支援。
3. グループ補助金採択後の復興事業活動についての助言・支援。



再建された亶理町水産センター（通称：きずなぼーと わたり）の1階部分に、産直販売所「鳥の海ふれあい市場」が入る



平成26年10月オープン  
仮設店舗とは異なり、平日も営業中。  
同時オープンした「鳥の海温泉」との連携を図る

多くの買い物客でにぎわう店内

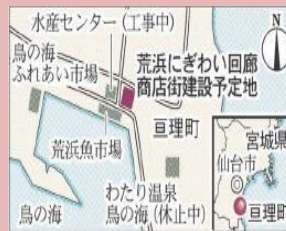


地元メディアも訪問取材

支援の成果

- ・海産物と野菜の直売所として、中小機構が整備した仮設販売所が土曜日・日曜日限定でオープン。
- ・中小機構の支援の元、グループ補助金の採択が決定。
- ・亶理町水産センター施設に本設店舗が、リニューアルオープン。
- ・補助金採択後の提出書類の整備等の指導実施により、円滑に補助金を受領することが出来た。
- ・つなぎ資金を含めた自己資金について、高度化スキームによる融資制度等の資金調達手段についての指導を実施し融資を受けることが出来た。
- ・復興事業の一環であるイベント「カレイフェスティバル」について、成功させるための留意点等アドバイスを実施し、盛り上がりのあるイベントとなった。
- ・グループ補助金支援による施設の早期の復旧、それに伴い平成27年3月、亶理町荒浜にぎわい回廊商店街がオープンし、鳥の海温泉、ふれあい市場と共に荒浜地区に温泉、飲食、小売と回遊性が生まれ、鳥の海ふれあい市場の売り上げも震災前に戻りつつある。

今後の事業展開



当産直施設、にぎわい商店街、鳥の海温泉との間の回遊促進が望まれる



・亶理町水産センターの隣に建設の「亶理町荒浜にぎわい回廊商店街」が完成



- ・にぎわい回廊商店街の店舗の一部は、レイアウト・デザイン・設計の見直し助言を中小機構震災復興支援アドバイザーが実施



多くの買い物客でにぎわうにぎわい回廊商店街

事業者からのコメント

被災前にはたくさんの観光客でにぎわいを見せていた鳥の海ですが、震災後に観光客は激減し、事業の継続も危うい状況でした。幸い中小機構の仮設店舗にて事業が再開され復興への第一歩を踏み出しましたが、売上高は震災前の3分の1に減少。そのような中、震災復興支援アドバイザー制度を知り、活用させていただき事となりました。アドバイザーには、制度融資や各種補助金の申請、本設移行に際しての各種支援などの多大なるご支援をいただき、非常に感謝しております。今後もご指導の程よろしくお願いたします。



鳥の海ふれあい市場協同組合  
理事長 菊地一男 氏

震災復興支援アドバイザーからのコメント

同地区は、沿岸部に位置しており、津波により甚大な被害を受けました。本格的な復旧が進む中で、とりわけ「きずなポートわたり」のオープンは震災復興のシンボルとなるものと思われれます。今後はこの施設運営の成功が重要になりますが、プロモーション戦略、事業収支等の事業内容において、定期的なチェックが必要になると思われれます。

同地区の復興に向けて、引き続きお手伝いさせていただければと思っておりますので、今後ともよろしくお願いたします。



震災復興支援アドバイザー  
営業コンサルタント 西村 哲雄